

平成30年度

事業報告書

社会福祉法人長岡東山福社会

平成30年度社会福祉法人長岡東山福祉会重点施策及び運営方針に基づき、次の事業を実施した。

【社会福祉法人長岡東山福祉会本部事業】

事業運営の成果

(1) 理事会の開催状況

開催日	出席者数	議案
6月4日	理事6/6名 (監事2/2名)	<ul style="list-style-type: none"> ・理事長並びに業務執行理事の職務の執行状況について（報告） ・平成29年度社会福祉法人長岡東山福祉会事業報告及び決算、並びに監査報告について ・社会福祉法人長岡東山福祉会定款細則の一部改正について ・社会福祉法人長岡東山福祉会就業規則の一部改正について ・デイサービスセンターかつぼ園指定通所介護・介護予防通所サービス運営規程の一部改正について ・長岡市デイサービスセンターふそき指定通所介護・介護予防通所サービス運営規程の一部改正について ・在宅介護支援センターかつぼ園居宅介護支援事業所運営規程の一部改正について ・介護プランセンターふそき居宅介護支援事業所運営規程の一部改正について ・定時評議員会の招集について
6月11日	書面決議 理事6/6名 (監事2/2名)	<ul style="list-style-type: none"> ・特別養護老人ホームかつぼ園介護老人福祉施設運営規程の一部改正について ・短期入所事業かつぼ園短期入所生活介護（介護予防短期入所生活介護）運営規程の一部改正について
12月25日	理事6/6名 (監事2/2名)	<ul style="list-style-type: none"> ・理事長並びに業務執行理事の職務の執行状況について（報告） ・平成30年度社会福祉法人長岡東山福祉会第1次補正予算について ・特別養護老人ホームかつぼ園の省エネ化等大規模修繕について ・デイサービスセンターかつぼ園の移築及び既存センターの改修工事について ・（株）川原経営総合センターとの経営コンサルタント顧問契約について ・社会福祉法人長岡東山福祉会就業規則の一部改正について ・社会福祉法人長岡東山福祉会準職員等就業規則の一部改正について ・社会福祉法人長岡東山福祉会準職員等給与規則の一部改正について ・社会福祉法人長岡東山福祉会事務処理規程の一部改正について ・社会福祉法人長岡東山福祉会個人情報に関する文書等管理規程の一部改正について

開催日	出席者数	議案
3月25日	理事5/6名 (監事2/2名)	<ul style="list-style-type: none"> ・理事長並びに業務執行理事の職務の執行状況について（報告） ・特別養護老人ホームかつぼ園の省エネ化等大規模修繕の経過について（報告） ・（株）川原経営総合センターとの経営コンサルタント顧問契約における指導の進捗状況について（報告） ・平成30年度社会福祉法人長岡東山福祉会第2次補正予算について ・社会福祉法人長岡東山福祉会中期計画について（2019年4月～2021年3月） ・平成31年度社会福祉法人長岡東山福祉会事業計画並びに当初予算について ・デイサービスセンターかつぼ園の増築及び既存センターの改修工事に伴う入札執行等について ・社会福祉法人長岡東山福祉会管理運営規則の一部改正について ・社会福祉法人長岡東山福祉会就業規則の一部改正について ・社会福祉法人長岡東山福祉会準職員等就業規則の一部改正について ・社会福祉法人長岡東山福祉会給与規則の一部改正について ・社会福祉法人長岡東山福祉会準職員等給与規則の一部改正について

（2）定時評議員会の開催状況

開催日	出席者数	議案
6月20日	7/7名 (理事1名)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度社会福祉法人長岡東山福祉会事業報告及び決算、並びに監査報告について ・平成30年度社会福祉法人長岡東山福祉会事業計画並びに当初予算について（報告）

（3）法人本部の取り組み

- ・10月にケアセンター花の里かつぼ創設10周年の式典を開催し、ご支援をいただいた関係者、地域住民、ボランティア団体を招き感謝の意を表した。
- ・事務局会議を定期的で開催し、法人運営に係る事項について協議を行った。また各部署の管理監督者が事業所運営するための年間アクションプランを作成し、毎月運営会議（施設部門・居宅部門）において評価、検討を実施した。
- ・職員の資質向上に向けて人事考課制度を導入、運用を開始した。面接の持ち方など課題も多く、今後検討を重ねていきたい。
- ・特養かつぼ園の老朽化に伴い、空調・給湯等の大規模改修を実施すべく、業者の選定を行い省エネ化のための調査を実施した。また、デイかつぼ園の経年劣化等備品設備にも不具合が出てきていることから、特養かつぼ園改修に合わせ移築を検討し、実施

設計の準備を開始した。

- ・川原経営総合センターとコンサルタント契約を締結し、等級基準表とキャリアアップを連動し、給与表の改正とあわせて、職員自らキャリアデザインが描けるような分かりやすい人事体制の構築に着手した。

(4) 専門委員会

① 人材育成委員会

30年度は新潟県社会福祉協議会主催の外部研修に職員が参加し、その内容を段階別に全職員へ伝達する計画を立て実施した。研修の時間確保ができず結果的に内容の一部しか伝達できなかった。

<資料> 研修内容

開催月	定期研修	職種別研修
4	30年度事業計画の説明	
5	食中毒の予防・感染症予防に関する基礎知識 (感染対策委員会主催)	
6	リスク管理研修(リスク管理委員会主催) 身体拘束廃止について(委員会主催)	事務職員研修 1回目
7	権利擁護・虐待防止研修(係長主催) 個人情報保護とプライバシー保護について 接遇研修(人材育成委員会主催)	事務職員研修 2回目 キャリアパス中堅コース研修
8	救急救命講習(看護職員主催、外部講師)	痰の吸引研修(特養介護職員) 1回目 事務職員研修 3回目
9	介護保険の基礎知識(在宅)	キャリアパスチームリーダーコース研修
10	感染性胃腸炎・インフルエンザなどの感染症 予防対策について(感染対策委員会主催) 褥瘡予防研修	栄養士研修 キャリアパス管理職員研修
11	リスク管理研修(外部講師) 介護保険の基礎知識(特養) 緊急時の対応(各部署に合わせた内容)	看護職員研修
12	身体拘束廃止について(委員会主催) 外部研修報告会(苦情解決能力向上研修)	事務職員研修 4回目 介護支援専門員研修 相談員研修 キャリアパス初任者コース研修
1	外部研修報告会: 苦情対応について メンタルヘルス研修(労働衛生委員会)	
2	介護保険制度の基礎知識(係長主催) ターミナルケア研修(係長主催) 認知症ケア研修	痰の吸引研修(特養職員) 2回目
3		介護職員研修(5年未満・5年以上) 新人フォローアップ研修

② 法人防災委員会

採用時研修として新採用職員及び中途採用職員に防災基礎研修として、初期対応の基本的動作と防災に対する心構えの講義を実施し意識向上を図った。また、9月は新採用職員を対象に消火器取扱い講習会及び実技訓練を実施し初期消火活動への理解を深めた。

③ 入所検討委員会

年6回開催した。30年度の待機者の傾向として、家族の事情や独居にて在宅生活が困難なため長期間ショートステイを利用されている方、病院や老人保健施設から退院・退所を勧められた要介護4、5の方が多かった。いずれもご家族が介護できない、もしくは身寄りがいない等の緊急性が高い方が多く順位付けが困難であった。年度末になると他界者および他施設入所のため取り下げる方も多くみられた。3月31日現在の2か所の特養全体の待機者は230人程度である。

④ サービス向上委員会

入所者（利用者）及び家族に対し満足度調査と職員の自己評価の実施分析を行い、改善すべき事項をアクションプランや事業所の目標に掲げて取り組んだ。回収率の低い事業所については配布用紙等を色付きにするなど見直しを行い、見やすくなったという声もいただいたが、大幅な改善には至らなかった。

⑤ 広報委員会

ホームページへのリニューアルに着手し、サービス紹介・求人情報・地域貢献をそれぞれ分かりやすく掲載することで決定した。

各事業所の活動状況等を定期的にホームページに掲載したことで、在宅サービス利用についての問い合わせもあり、一定の成果が得られた。

⑥ 納涼祭実行委員会

ご利用者の参加をメインとした昼の部では提灯等の祭り飾りと職員喧嘩神輿で夏祭りを演出したほか、射的・くじ引きを楽しんで頂いた。また、ご利用者家族や地域の参加をメインとした夜の部では250名を超える来場があった。恒例となった夜の部ステージでは山本中学校吹奏楽部がオープニングを飾り悠久太鼓や大抽選会等も盛り上がりを見せ、屋台・縁日は人の行列がほとんど途切れることなく大盛況だった。

(5) 職員の動向

運転業務等を行う管理員並びに看護師の退職と補充のための採用を実施した。また産前産後休暇や育児休暇取得者が6名いたが、その補充が困難な状況だった。

資格取得については、介護福祉士の資格取得率が高く、未取得者についても研修を受講し試験にチャレンジする職員が多かった。介護支援専門員についても受験者は増えており、スキルアップへの意欲は高まっている。

<資料>

① 採用者・退職者数

単位：人（実数）

雇用形態	採用者数		退職者数	
	正規・準	パート	正規・準	パート
30年度	9	3	9	3
29年度	11	3	11	7

② 資格保有状況 (31. 3. 31 現在)

単位：人（実数）

区分	かつぼ園	福祉センター ふそき	ケアセンター 花の里	合計
総職員数	95	48	45	188
介護福祉士	60	27	31	118
社会福祉士	3	6	3	12
看護師	5	6	1	12
准看護師	3	1	2	6
管理栄養士	1	0	1	2
介護支援専門員	16	14	8	38

(6) 地域連携等に関すること

① 花華クラブ

- ・主な活動場所となっているケアセンター花の里かつぼ（グループホーム）ご利用者と、会員の交流が定着し、本活動日以外にも余暇活動等へご参加いただき、ご利用者は施設にしながら外部との交流の機会を得ている。
- ・外での活動がなく、感染症流行期でもあるため活動を自粛していた冬期間に、有志で創作活動を行ったが、とても楽しみにされておられる様子が見られるので、今後定期開催を検討したい。
- ・研修旅行は昨年に引き続き、県内の「二宮家のバラ・北方文化博物館」を視察先とした。バラの他にクレマチスやハーブ系の植物なども多く植栽されており、講師に質問しながら熱心にメモを取る姿が見られた。
- ・会員の高齢化によりできる作業内容・量に限りが出てきているが、本活動により会員相互はもとより、職員やご利用者との交流が継続することで孤立を防ぐことができているため、今後も楽しく参加していただける取り組みを行っていききたい。

② レインボー健康体操

- ・指導資格保有に必要な単位数を計画的に取得して知識と技術の向上を図り、介護予防及び地域貢献体制の維持と安全確保に努めた。
- ・花の里かつぼ定例教室の実施回数は前年度比1回減だが参加者数は4.1%増加した。近隣地域から男性の新規参加者があったためと思われる。また、1回の平均参加人数は10.3人となり、活気ある教室となりつつある。
- ・ふそき定例教室の実施回数は昨年度比1回減だが参加数は3.1%増加した。新規参加が絶えなかったことと、悪天候が少なく冬期間の人数減少がなかったことによるものと思われる。
- ・定例教室参加者にアンケートを行い評価・要望等を把握した。その結果を受け、6回目となった懇親会では地域包括支援センターふそきの職員を講師とした「認知症講座」を開催し、非常に好評であり介護予防へのさらなる意識付けに効果的であった。
- ・イベントは、日頃の活動成果の発揮と親睦を目的として「大運動会」を企画し実施した。初の試みながら多数の参加があり、多種多様な競技種目を実践し好評を得ることができた。

- ・体力測定数は昨年度より 20.0%増加した。より多くの方から自身の身体に興味や自信をもっていただけるよう今後も働きかけていく。

<資料>

ケアセンター花の里かつぼ

月	実施回数		延べ参加人数		月	実施回数		延べ参加人数	
	30年度	29年度	30年度	29年度		30年度	29年度	30年度	29年度
4	4	4	38	38	10	3	3	32	29
5	3	4	23	40	11	4	3	41	21
6	4	3	43	26	12	4	4	40	43
7	4	4	34	40	1	3	4	34	36
8	4	3	39	32	2	4	4	47	33
9	3	5	37	54	3	3	3	35	33
合 計						43	44	443	425

高齢者センターふそき

月	実施回数		延べ参加人数		月	実施回数		延べ参加人数	
	30年度	29年度	30年度	29年度		30年度	29年度	30年度	29年度
4	4	4	114	110	10	3	4	83	100
5	4	4	96	104	11	5	4	114	79
6	5	5	143	125	12	4	5	101	116
7	4	4	95	96	1	4	4	99	81
8	5	4	94	77	2	4	4	97	76
9	4	5	107	126	3	5	5	116	131
合 計						51	52	1,259	1,221

近隣地域老人会等

団体名	実施回数		延べ参加人数	
	30年度	29年度	30年度	29年度
美園友美会（川崎地区）	11	10	234	188
東栄・琴平 地域の茶の間（川崎地区）	2	1	21	13
愛宕 地域の茶の間（川崎地区）	3	4	21	33
稽古町 地域の茶の間（川崎地区）	4	4	32	37
若葉会（川崎地区）	10	8	158	141
さくら会（千手地区）	11	12	94	92
むら茶屋（新組地区）	1	1	17	13
楽天茶屋（新組地区）	1	1	17	18
福茶屋（新組地区）	1	1	15	17
新保2丁目福祉部会（新保地区）	2	4	41	105
新保3丁目福祉部会（新保地区）	1	1	6	10

団体名	実施回数		延べ参加人数	
	30年度	29年度	30年度	29年度
新保4丁目福祉部会（新保地区）	2	0	34	0
シルバーハウジング稲葉	10	0	11	0
稲保はつらつ会（稲保地区）	21	9	108	54
加津保楽生会（山本地区）	0	1	0	10
乙吉宮路高砂会（山本地区）	4	7	35	89
亀崎町有志サークル（山本地区）	23	24	201	192
山本コミュニティセンター（山本地区）	0	1	0	13
はつらつ広場（栖吉地区）	12	8	196	115
宝町内会（黒条地区）	6	5	45	71
合計	125	102	1,286	1,211

その他

団体名	実施回数		延べ参加人数	
	30年度	29年度	30年度	29年度
レインボー花の里・ふそき教室参加者懇親会	1	1	21	26
〃 体力測定	1	1	18	15
レインボー特別教室、イベント型教室	1	1	29	4
合計	3	3	68	45

③ 花壇イベント

春の開催は天候に恵まれたなか、多くの地域の方々等から参加頂くことができ交流を図ることができた。また、スターバックス千秋店のスタッフもボランティアで参加しコーヒーを無料で提供してもらい参加者から「おいしかった」等の声が聞かれた。また、秋は天候が悪いなかでの開催であったが、参加者はチューリップ球根の植え方などの講義や花苗植えを行ないながら楽しく活動されていた。また、活動終盤に雨になったため豚汁・おにぎりの提供をセンター内の研修会議室に場所を変更し、花の里10周年行事の上映も行いながら楽しんで頂くことができた。

<資料>

	時季	参加人数	時季	参加人数	合計
30年度	春	62	秋	45	107
29年度	春	59	秋	52	111

④講師派遣（アクティビティ、フラワーアレンジメント、介護保険講座、栄養講座等）

派遣先団体名	実施回数		延べ参加人数	
	30年度	29年度	30年度	29年度
桂寿会（山本地区）	7	6	103	93
なかよし元気会（富曾亀地区）	12	11	89	112

派遣先団体名	実施回数		延べ参加人数	
	30年度	29年度	30年度	29年度
北陸福祉保育専門学院介護福祉学科	2	2	14	24
新潟県シルバー人材センター連合会	1	1	11	13
百束茶屋（新組地区）	1	1	18	15
楽天茶屋（新組地区）	—	1	—	20
ひまわりの会（新保地区）	12	10	115	105
宝町内会（黒条地区）	3	3	38	49
合 計	38	35	388	431

（7）その他

① 介護予防教室「お元気学校」

虚弱高齢者を対象に介護予防を目的とした「お元気学校」を30年度は20回実施し、15名の高齢者の参加があった。（年度途中で2名が体調不良にて辞退された）。レインボー健康体操や認知症予防プログラム、参加者の意見を取り入れた外出、まちの先生を利用した俳句の学習、鍼灸師による健康相談、生演奏で懐かしい歌を歌う時間や創作活動等多種多様なプログラムを実施した。参加者からは「家には経験できないことを、毎回いろいろな活動があって出かけるのが楽しみ」という声が多数聞かれた。

② 介護体験教室

小学1年生～6年生の11名の参加があった。地域の親子参加を募ったが、夏休み初日で小学校の行事が間近であった為か地域の参加は1名のみで、他は法人職員の家族の参加となった。高齢者疑似体験、高齢者の食事について学んだ後グループホームの活動を見学しふれあいを体験した。「来年もまた参加したい」「グループホームのお年寄りと触れ合って楽しかった」等の意見が寄せられた。

【拠点・特別養護老人ホームかつぼ園】

1. 事業運営の成果

特別養護老人ホームかつぼ園について第三者評価を受審した。利用者に対する生活支援における様々な取り組みは高い評価だったが、利用者が居心地よく過ごせる環境整備に課題があるとの指摘を受けた。今後改善に向けた取り組みを実施していく。

(1) 事務課

- ・会計事務所による巡回指導において指導を受けた内容に重点を置いた課内研修を実施し、理解を深めることができた。しかし、経験年数に応じた研修体系が不十分であることが課題としてあがった。
- ・職員からの提出物に記載漏れや誤りが多いことについて、課員からの提案による説明会を実施し、例年より確認や修正にかかる時間を削減できた。

(2) 施設サービス課（特別養護老人ホームかつぼ園）

- ・特養の入所待機者は3月末時点で200名程度あり、経済的に困窮している方、単身や老々介護、病院を退院後の在宅サービス利用も困難な状況の方が多いため、8月より入所定員を4名増やし104名に変更した。
- ・利用者の高齢化も進み退所数も多かったが、空床を可能な限り減らすため、常に待機者リスト状況の確認を行いスムーズな入所受け入れを行う事ができた。

① 1・2係

- ・利用者の身体状況や生活上の課題を把握し、その方のニーズや生活上の心配事を家族と情報共有を行うため、多職種が連携を取って、ご家族の面会時に積極的に声を掛け信頼関係が構築できた。そのことで、ご家族と共にその人らしい園での生活を支えることができた。
- ・利用者やご家族が安心して終末期を迎えることができるよう、他職種協働で寄り添う看取りケアを行った。ご家族の中にはいつかは終末期を迎えるだろうと理解しつつも、その状態であるという診断に対し受け入れる気持ちが整わず、延命治療を望み病院へ入院された方もおられた。その際も丁寧な説明を心掛けた。
- ・園児、児童、学生をはじめ多くの地域ボランティアを受け入れる事で、開かれた施設づくりの実践ができた。ただボランティアの総数としては減少傾向にある。
- ・個々の職員の学びたい内容を把握し外部研修の参加を促した。また研修の報告を他職員へ伝達する機会を設け、他者へ伝える工夫を自ら考えることを実践し、チーム全体の知識向上に繋がった。
- ・職員の働きやすさや働きがいの向上を目指し、業務の見直しを実践した。そのことにより、一部の業務については時間の短縮が出来た。しかし、職員の体調不良等をカバーできない日も多く超過勤務を削減する事が難しかった。

② 医務係

- ・利用者の身体状況を把握し、協力病院や主治医と連携を図りながら、本人及び家族の望む対応を確認し、日常のケアに対して安心安楽な生活を送れるよう支援した。
- ・全職種が協働で感染症拡大の防止に取り組んできたことで、利用者の感染症の発生及びまん延が防げた。
- ・他職種と連携を図り、利用者本人やご家族の意向にそった治療を提供し、最期まで穏

やかで安心できる看取りケアを実施した。

- ・外部研修で褥瘡ケア及び予防研修に参加し、加算のスムーズな取得につながった。

② 給食係

- ・看取り支援の一環として、アイスクリームやプリンなどの口当たりの良いものを提供し、最期まで口から食べる楽しみを感じられるよう、食事面から支援を行った。
- ・低栄養の予防、改善を目標に、入所者一人ひとりにあった栄養ケアマネジメントを行った。また定期的に見直しを行い、利用者の栄養状態の把握に努めた。
- ・厨房内だけでなく、施設提供以外の食べ物の取り扱いについて、衛生管理の重要性を発信し、施設全体で食中毒予防に努めた。
- ・温冷配膳車の導入を行い、今まで以上に“温かい物は温かく、冷たい物は冷たいまま”の食事提供が実現した。また、利用者に喜んでいただける食事の提供として、委託業者と連携しバイキング食、選択食、都道府県巡りの郷土メニューなどを実施した。

資料1 <入所者の状況>

① 入退所状況 (平成31年3月31日現在) 単位：人(実数)

入所前の状況						
状況	在宅	長期間 ショート	老健等 他施設	病院	法人グループ プホーム	合計
30年度	16	3	4	8	0	31
29年度	6	3	13	4	1	27

退所の状況					
状況	在宅	施設で死亡 ※1 ()	協力病院 入院中死亡	病院等へ入院 のため退所	合計
30年度	0	24 (21)	1	1	26
29年度	0	25 (22)	2	0	27

※1 () ターミナルケア計画に基づき、施設内で看取りを実施した数

② 年度末介護度別数 単位：人(実数)

年度	介護度						合計
	要介護度1	要介護度2	要介護度3	要介護度4	要介護度5		
30年度	1	3	14	52	34	104	
29年度	1	4	16	43	36	100	

③ 月別利用数 単位：人(延べ数)

30年度	月	4	5	6	7	8	9	合計	稼働率
	人数	2,989	3,086	2,968	3,049	3,206	3,108		
	月	10	11	12	1	2	3		
	人数	3,196	3,101	3,215	3,209	2,874	3,210		

29年度	月	4	5	6	7	8	9	合計	稼働率
	人数	2,969	3,072	2,979	3,076	3,063	2,990		
	月	10	11	12	1	2	3	36,241	99.3%
	人数	3,090	2,982	3,093	3,085	2,779	3,063		

④ 介護度別利用数

単位：人（延べ数）

30年度	介護度	1	2	3	4	5	合計	平均介護度
	人数	365	1,094	5,532	17,177	13,043	37,211	4.12
29年度	介護度	1	2	3	4	5	合計	平均介護度
	人数	365	1,993	6,251	14,258	14,038	36,905	4.04

⑤ 日常生活動作（平成31年3月31日現在） 単位：人（実数）

生活動作尺度	区分	30年度	29年度
移動	独歩	2	1
	介助・介助具使用	11	11
	車椅子	91	87
食事	自立	54	45
	見守り	0	0
	一部介助	22	26
	全介助	23	25
	経管栄養	5	3
排泄 (日中)	トイレ 自立	9	9
	一部介助	23	19
	全介助	3	6
	ポータブルトイレ・自立	3	0
	一部介助	2	2
	全介助	0	0
	オムツ	61	61
フォーレ	3	2	
入浴	一般浴	20	19
	座浴	21	20
	特浴	63	60

⑥ 食事形態（平成31年3月31日現在） 単位：食（実数）

主食		副食	
米飯	17	普通	17
粥	51	刻み	29
粥ミキサー	25	小刻み	5
パン粥	6	超刻み	24
経管栄養	5	ミキサー	29

資料2 <余暇活動等>

① 余暇活動の実績

単位：人

月	余暇活動内容	参加人数
4	ふれあいタイム	25
	映写会	20
5	すこやかともしび祭作品作り	7
	おはぎ作り	10
	ふれあいタイム	35
6	外出ドライブ	3
	すこやかともしび祭作品作り	4
	七夕飾り作り	10
	ふれあいタイム	10
	映写会	24
7	すこやかともしび祭作品作り	15
	七夕飾りつけ	5
	風船バレー	11
	映写会	26
8	盆供養会	30
	すいか割り大会	36
	すこやかともしび祭作品作り	8
	カラオケ	21
9	すこやかともしび祭作品作り	2
	おはぎ作り	11
	すこやかともしび祭見学	3
	映写会	29
	カラオケ	30
	敬老会	28
10	大運動会	34
11	外出ドライブ	4
	ふれあいタイム	29
	カラオケ	25
12	映写会	28
	ハンドマッサージ	6
1	新年会	50
	絵馬づくり	40
	映写会	22
	カラオケ	26
2	節分	57
	映写会	15

月	余暇活動内容	参加人数
2	カラオケ	31
	ふれあいタイム	25
3	春の訪れを感じる会	28
	彼岸供養会	30
	ふれあいタイム	41
	映写会	31
合 計		925

② クラブ活動の実績

クラブ名	実施回数	延べ参加人数
調理クラブ	5	36
書道クラブ	12	117
歌謡クラブ	23	647
生け花クラブ	12	133
合 計	50	933

③ 特養花華クラブ参加状況（家族協力会協賛）

単位：人（延べ数）

月	実施回数	参加人数		内 容
		入所者	家族	
6	1	12	8	夏のプランター作り
7	1	12	12	風鈴短冊作り
8	1	12	5	モイストポプリ
9	1	12	5	野沢菜の種まき
10	1	12	13	秋のプランター作り
11	1	12	8	花華カレンダー作り
12	1	12	10	シクラメンの植え付け
合計	7回	84	61	※4・5・1・2・3月は実施なし

(3) 施設サービス課（短期入所事業かつぼ園）

- ・昼食前に行っている軽体操とお口の体操を兼ねた歌の会は、ご利用者の日課として定着した。また、例年通りおはぎや笹だんご作りを実施し、地域のボランティアからご協力いただき非常に好評だった。季節のドライブや食事のため外出などもご利用者から喜んでいただいた。
- ・入退所の送迎時や、サービス利用中に家族及び利用者と意識してコミュニケーションを図るよう申し合わせたことで、職員の意識も高まり、ニーズの的確な把握ができそれをサービス提供に反映することができた。
- ・利用者の定着の促進と稼働率向上のため、利用者の状態と空室状況等について居宅介護支援事業所等関係機関に頻回に情報提供を実施した。また緊急を要するケースや新規利用者を積極的に受け入れ目標稼働率（91%）を達成できた。

- ・8月より特養の増床に伴い、定員が20名へ変更したことで減収となったが、入退所時間の見直しや居宅介護支援事業所へのPRにより大幅な減収とはならなかった。

資料<利用者の状況>

① 市別利用数

単位：人・日（延べ数）

年度	長岡市		見附市		合計	
	人数	日数	人数	日数	人数	日数
30年度	1,229	7,513	32	364	1,261	7,877
29年度	1,591	7,333	46	641	1,637	7,974

② 月別利用数（ ）内は予防短期入所生活介護利用数

単位：人（延べ数）

30年度	月	4	5	6	7	8	9	合計	稼働率
	人数	605 (23)	660 (19)	677 (14)	683 (14)	614 (13)	623 (17)		
月	10	11	12	1	2	3			
人数	599 (10)	674 (11)	672 (10)	644 (10)	607 (16)	648 (14)			
29年度	月	4	5	6	7	8	9	7,871 (116)	91.2%
	人数	620 (5)	611 (8)	614 (8)	690 (10)	698 (4)	704 (6)		
	月	10	11	12	1	2	3		
	人数	647 (4)	613 (8)	684 (20)	689 (11)	601 (12)	700 (20)		

③ 介護度別利用数

単位：人（延べ数）

30年度	介護度	要支援	1	2	3	4	5	合計	平均介護度
	人数	171	687	1,432	2,572	1,306	1,709		
29年度	介護度	要支援	1	2	3	4	5	合計	平均介護度
	人数	116	762	1,396	2,619	1,398	1,696		

(4) 在宅サービス課（デイサービスセンターかつぼ園）

- ・新規利用者獲得と稼働率向上のため、居宅介護支援事業所を訪問し空き情報や行事等の案内も含め、事業所のPRを行った。利用登録者数は前年度を下回ったが、現在利用されている方から利用回数の増加を希望される場合が多くあった。また冬期間は暖冬の影響もあり、キャンセルされる方が少なく、利用人数を確保できた。そのため、年間利用延人数及び年間稼働率ともに前年を上回ることができ増収へ繋がった。
- ・個別機能訓練へのニーズが高いこともあり、活気ある訓練を実施することができた。目標達成へ向けて取り組むことで利用者の達成感や楽しみ・生きがいとなり、サービス利用継続及び利用増加へ繋がっていると考えられる。
- ・認知症ケア計画書・個別機能訓練計画書などの見直しを行い、今までより管理しやすい様式を作成したが、個別機能訓練参加者が多く、計画立案及び評価に時間がかかっているため、更なる業務改善が必要となっている。

資料＜利用者の状況＞

① 登録者数 単位：人（実数）

区分 年度	長岡市	見附市	合計
30年度	116	4	120
29年度	113	10	123

② 利用者数 単位：人（延べ数）

区分 年度	長岡市	見附市	合計	稼働日数	1日あたり 平均人数
30年度	8,124	140	8,264	364	22.7
29年度	7,471	349	7,820	364	21.9

③ 月別利用数

（ ）内：予防通所サービス利用数（29年度予防通所介護含む） 単位：人（延べ数）

年度	月	4	5	6	7	8	9	合計	稼働率
	人数	619 (53)	646 (57)	636 (60)	658 (62)	637 (56)	662 (45)		
月	10	11	12	1	2	3			
人数	702 (37)	655 (35)	671 (30)	624 (22)	590 (29)	651 (27)			
29年度	月	4	5	6	7	8	9	7,087 (733)	85.9%
	人数	604 (61)	626 (63)	618 (51)	612 (60)	635 (53)	589 (50)		
	月	10	11	12	1	2	3		
	人数	593 (73)	560 (74)	572 (65)	539 (57)	511 (51)	628 (75)		

④ 介護度別利用者数 単位：人（延べ数）

年度	介護度	要支援	1	2	3	4	5	合計	平均 介護度
	人数	513	1,755	2,544	2,036	894	522		
29年度	介護度	要支援	1	2	3	4	5	合計	平均 介護度
	人数	733	1,960	2,193	1,632	635	667		

⑤ 行事計画 単位：人（延べ数）

月	行事計画	参加人数
4	お花見ドライブ（エコトピア寿・原町公園）	41

月	行事計画	参加人数
5	新緑ドライブ（平瀨神社）	56
	田植え（バケツ稲）	23
6	ドライブ（摂田屋街巡り）	53
	北地域図書館外出 梅干し作り	3 20
7	買物ツアー（原信）	24
8	法人納涼祭	21
	デイ夏祭り	45
	フラワーアレンジメント	4
	甘味処ツアー	4
9	すこやかともしび祭り見学	3
	敬老会	65
	ドライブ（宮路様）	25
	しそジュース作り	23
10	ドライブ（栃尾あぶらげ）	37
	社会科見学（越のむらさき）	5
	おにぎり作り	24
11	さつまいもご飯作り	45
12	鏡餅作りとおはぎ作り	22
	クリスマス会	43
1	ミニどら焼き作り	23
2	節分	44
	バレンタインデーカップケーキ作り	43
3	年度末感謝祭	85
合 計		781

（５）在宅サービス課（在宅介護支援センターかつぼ園）

- ・ご本人が住み慣れた地域で自己決定に基づき自立した生活が送れるように、インフォーマルサービスも含めた地域資源を活用した居宅サービス計画書の作成を行うことができた。また、かかりつけ医やサービス事業所とも連携し支援することができた。
- ・地域の社会資源の把握、情報収集は行ったが、利用者家族に冊子を作成し提供するまでには至らなかった。
- ・介護保険更新時や状態変化時に医療機関との連携を図った。また入院時には迅速に情報提供を行い、退院後も自宅での生活にスムーズに移行できるよう病院との連携に努めた。
- ・特定事業所加算を算定している事業所として、地域の介護支援専門員の資質向上を目指し、他法人と合同の事例検討会を開催するために話し合いを行い、地域の居宅介護支援事業所の職員にも参加してもらい年２回の事例検討会を開催することができた。

資料＜利用者の状況＞

① 居宅サービス計画作成数

単位：件（延べ数）

30 年 度	月	4	5	6	7	8	9	合計
	件数	131	136	133	127	128	130	1,590
	月	10	11	12	1	2	3	
	件数	133	140	135	132	128	13	
29 年 度	月	4	5	6	7	8	9	
	件数	126	125	130	135	122	128	1,529
	月	10	11	12	1	2	3	
	件数	126	124	123	129	131	130	

② 介護予防支援受託件数

単位：件（延べ数）

30 年 度	月	4	5	6	7	8	9	合計
	件数	17	17	17	18	18	17	193
	月	10	11	12	1	2	3	
	件数	15	16	15	14	15	14	
29 年 度	月	4	5	6	7	8	9	
	件数	18	17	16	16	17	16	196
	月	10	11	12	1	2	3	
	件数	14	15	14	17	18	18	

③ 介護予防ケアマネジメント受託件数

単位：件（延べ数）

30 年 度	月	4	5	6	7	8	9	合計
	件数	5	5	5	7	6	5	58
	月	10	11	12	1	2	3	
	件数	5	4	4	4	4	4	
29 年 度	月	4	5	6	7	8	9	
	件数	0	0	0	0	1	1	37
	月	10	11	12	1	2	3	
	件数	8	5	8	5	6	6	

④ 訪問調査件数

30年度 130件	29年度 232件
-----------	-----------

2. ボランティア・実習生等の受け入れ

① ボランティアの受け入れ

単位：人(延べ数)

区 分			30 年度	29 年度
かつぼ園	定期	個人ボランティア	79	116
		団体(グループ)ボランティア	411	458
	随時	個人ボランティア	0	13
		団体(グループ)ボランティア	6	23
		保育園・学校等	62	55
	合 計			558

② 施設及び居宅実習・体験実習等の受け入れ

単位：人(延べ数)

受入事業所	区 分	30 年度		29 年度	
		実人員	延日数	実人員	延日数
特養かつぼ園	北陸福祉保育専門学院 (介護福祉士資格取得)	3	80	3	93
	悠久山栄養調理専門学校 (栄養士資格取得)	2	12	2	14
	悠久山栄養調理専門学校 (調理師資格取得)	1	14	2	14
	障がい者職場実習	1	6	2	45
	新潟県新採用職員研修	2	2	2	2
デイサービス	北陸福祉保育専門学院(教員免許 に係る介護等体験実習)	0	0	4	20
	北陸福祉保育専門学院 (介護福祉士資格取得)	0	0	6	12
	北陸福祉保育専門学校(職業実践 実習)	6	6	6	6
	新潟県社会福祉協議会 (教員免 許に係る介護等体験実習)	0	0	2	10
支援センター かつぼ園	新潟県厚生連中央看護専門学校 在宅看護実習	15	30	18	36
デイ・特養	福祉体験学習 (中学校)	2	5	1	3
合 計		32	155	65	353

3. 拠点委員会

① リスク管理委員会

事故を未然に防ぐために気づきによる事故防止の視点で研修を計画し、施設内の生活の場面のイラストを使用し、小グループに分かれてKYT訓練を実施した。その効果として、日常的な小さなヒヤリに気づくことが多くなり、職員のリスクに対する意識を高めることができた。

② 食事サービス委員会

食事の味付けや見た目、硬さなどの安定化を図るため、クックチルシステムの導入を検討した。また各部署で利用者や職員に対して日々の食事内容について評価を実施し、より良い食事サービスや満足感のある美味しい食事提供を実現できた。

③ 防災委員会

日中や夜間の火災時並びに地震発生時に、安全に入所者（利用者）の避難誘導を行う為、イメージトレーニングを2回実施し、有事の際に的確な判断ができるよう訓練を行った。また、夜間想定避難訓練では消防署から指摘事項が多くあり、これを受けて次年度は計画を見直し、より職員が手薄の時間帯に的確に動けるような訓練を実施する。

④ 感染対策委員会

施設の感染症及び食中毒の予防及びまん延の防止のため、5月には食中毒感染予防及び発生時の対応、10月にはノロウイルス発生時の対応について、自身の処理方法の間違いを再確認できるような研修を実施した。新人職員には感染流行時期となる前に、再度確認のための研修を実施した。嘔吐物処理方法については、新人職員以外にも個別指導を実施したことで正しい処理方法を理解できたという意見が多かった。インフルエンザ発症については職員の感染はあったが、感染者のいる部署との接触を迅速に停止する事で、職員間の感染は最小限に抑えることができた。また、コンタクトポイントの掃除・除菌を徹底したことで利用者の感染は抑えられた。面会者への手洗い・うがい・マスク着用等の働きかけを徹底して継続したことも結果に繋がった。

⑤ 労働衛生管理委員会

職員の定期健康診断について、委員からの働きかけの強化により要医療の結果を受けた再受診率が上がり、早期に疾患を発見し治療に繋げることができた。またメンタルヘルス研修については外部講師を依頼し、簡単に実践できるストレス緩和方法を学んだ。

⑥ 身体拘束廃止虐待防止委員会

身体拘束について各事業所の現状把握と改善の検討、身体拘束をせざるを得ない場合の検討及び手続き・解除の検討、身体拘束廃止・高齢者虐待防止に関する職員全体への意識の浸透について、2回研修を実施した。また、不適切なケアに繋がる事例がないか毎月点検し、意識や環境の改善を図るため検討内容を周知する等、虐待を未然に防止する事についても取り組みを実施した。

⑦ 園芸委員会

『ご利用者と職員協同で育てた花等を、ボランティアさんや保育園の皆さんにプレゼントして交流を広げる』ことをテーマに長岡市花いっぱいコンクールに参加し、優秀賞を受賞した。

拠点内事業所ごとにご利用者に合わせた作業で協力し合った他、地域老人会の定期的な活動もあり年間通して美しい花壇整備ができ、ご利用者や面会者に楽しんでいただくことができた。

⑧ 痰の吸引等安全対策委員会

痰の吸引が要する利用者はいないことから介護職員の実施はなかった。定期的に吸引器の点検管理を行った。また年2回吸引研修を実施し、緊急時の対応も確認した。

4. 苦情（意見）内容

短期入所事業 かつぼ園	①内容	申出人 ご家族 帰宅後に本人から「入浴時にまだ温まっていないのに、次の人がいるから風呂からあがるように言われた」「耳に水が入ったが、きちんと対応してくれなかった」といっているとの連絡があり対応が雑だったのではと指摘があった。
	原因と対応	入浴介助職員とご利用者とのコミュニケーションが良く図られていなかった。耳が遠く職員の説明がきちんと伝わっていなかったことが原因と思われる。
	改善策（結果）	ご利用者へ対応する際は顔を見て説明を行い、説明後は了解されている事を確認してから行動へ入る事とした。その後は改善されている。
	②内容	申出人 ご家族 急変し救急搬送された際、同行した看護師から経緯や状況報告がなかった。
	原因と対応	日頃の対応を相談員が行っていたことから、その意識で対応してしまった。管理監督者が自宅へ伺い謝罪した。
	改善策（結果）	状態の報告について、看護師は専門職としての視点でご家族へ報告（連絡）することを再確認（周知）した。あわせて、看護師へ接遇について指導を実施した。
デイ かつぼ園	①内容	申出者 家族 自宅に土足で入ったのではないかとご家族から指摘を受けた。
	原因と対応	対応した職員に確認したところ、単身世帯のため通常ご本人の部屋まで迎えに上がるため玄関が上がったが、ご家族がおられたことから慌ててしまい急いで降りたとのこと。その行動を不審がられたと思われた。ご家族へは管理者が伺い誤解を与えるような行動を取ったことを謝罪した。
	改善策（結果）	送迎時の留意点と接遇に関する研修を職員に対して実施した。
	②内容	申出者 匿名 送迎車両が進行方向と逆向きに道路上に駐車しており危険だったとの電話をいただいた。
	原因と処理	利用者自宅には駐車スペースがなく、道幅も狭くUターンも難しかったことから、自宅前に進行方向とは逆向きに駐車した。その際対向車がきていた。
	改善策	送迎車両の駐車には周囲の状況を鑑みて適切に対応するよう職員に周知した。

【拠点・福祉センターふそき】

1. 事業運営の成果

(1) 高齢者センターふそき

- ・ 日常的な自主点検と館内清掃・消毒を継続しより安全・清潔・衛生を確保した。老朽化に伴う不具合が多数発生したが、修理、修繕をこまめに行い、営業に支障は生じることはなかった。またボイラー等の温度管理や節電等を心掛け、光熱水費が前年度比で約3%減となった。
- ・ 来館者総数は前年度比で101.8%となった。広報活動の継続により、一般来館者も増えているが、自主事業も周知されてきており、映写会については毎回楽しみにされているという声もいただいた。
- ・ 利用者アンケートは標準的な結果であったが、利用者間のトラブルの訴えがあり個別に対応した。
- ・ 広報紙の地域への回覧を継続して実施し、新規利用者の開拓を目指した。入浴目的で利用される方も増えた。

資料 <利用者の状況>

①利用者数

項目	年度	延べ人数	前年度比 (%)
専用室利用者	30	16,340	97.7
	29	16,720	
個人入館者	30	18,603	105.6
	29	17,619	
合計(総入館者)	30	34,943	101.8
	29	34,339	

②行事等の状況

カラオケ、誕生会

月	実施回数		延べ参加人数		月	実施回数		延べ参加人数	
	30年度	29年度	30年度	29年度		30年度	29年度	30年度	29年度
4	1	1	107	106	10	1	1	94	86
5	1	1	84	83	11	1	1	96	106
6	1	1	96	87	12	1	1	98	98
7	1	1	93	82	1	1	1	95	117
8	1	2	105	154	2	2	2	192	144
9	2	1	155	86	3	1	1	96	104
合 計						14	14	1,311	1,253

映写会

月	実施回数		延べ参加人数		月	実施回数		延べ参加人数	
	30年度	29年度	30年度	29年度		30年度	29年度	30年度	29年度
4	2	2	20	34	10	2	2	20	17
5	2	2	15	20	11	2	2	33	18
6	2	2	39	21	12	2	2	35	20
7	2	2	16	26	1	2	2	39	20
8	2	2	16	26	2	2	2	32	23
9	2	2	24	28	3	2	2	34	19
合 計						24	24	323	272

その他

月	内 容	参加人数	
		30年度	29年度
11	はかま紙教室	11	10
2	豆まき	27	30
合 計		38	40

(2) 長岡市デイサービスセンターふそき

- ・周辺地域に入所系施設が開設したことや、入院された利用者が回復されても在宅に戻ることなく施設へ入所されることが多く、一般型の稼働率が減少した。また登録者数は増えたが、利用回数が少ないことから延べ人数は伸びなかった。認知症対応型については、29年度の稼働率がかなり低かったことから、より個別対応を心掛け、関係機関や地域へPRを行うことで利用延べ人数が増えた。
- ・ご利用者、ご家族の心身状況や要望及び在宅での生活行為や住環境を踏まえたアセスメントをケアマネジャーと連携し行った。また要望が多く寄せられていた個別機能訓練について、職員体制が整ったため、通所介護（一般型）においても開始した。
- ・事業所内で通所介護計画についての研修を行い、個別ニーズに即した計画を作成することができた。
- ・通所介護（一般型）に関しては、近隣のお店での買い物や夏まつりの開催等多様な活動を実施し、脳の活性化による認知症予防や生活機能を向上させる訓練を実践することができた。
- ・認知症型通所介護では、子どもたちに創作活動作品をプレゼントする等隣接する児童館との交流を深めた。
- ・自主事業として地域老人会等に向けて計画的且つ継続的に職員を派遣し、要望に沿って派遣先団体の活動の支援を実施した。
- ・居宅介護支援事業所等の他「かわら版」を地域へ配付・回覧を継続した。また地域ケア会議や地域福祉懇談会への参加などにより地域の関係機関との連携に努めた。
- ・ご利用者自ら買い物をするなど、在宅生活を維持するための機能訓練を目的とした外出に視点をおき活動を実施した。

資料<利用者の状況>

① 登録者数

単位：人（実数）

年度	長岡市		合計
	一般型	認知症型	
30	172	39	211
29	150	34	184

② 利用者数

単位：人（延べ数）

年度	長岡市		合計	稼働日数	1日あたり 平均人数
	一般型	認知症型			
30	9,628	2,801	12,429	365	34.1
29	9,740	2,348	12,088	365	33.2

③ 月別利用数

() 内：予防通所サービス利用数（29年度予防通所介護含む） 単位：人（延べ数）

30 年度	月	4	5	6	7	8	9	合計	稼働率
	一般型	700 (101)	705 (105)	702 (104)	701 (101)	698 (108)	642 (111)	8,296 (1,332)	87.9%
		10	11	12	1	2	3		
		663 (116)	695 (123)	767 (118)	670 (116)	641 (112)	704 (117)		
	月	4	5	6	7	8	9	2,801 (0)	64.0%
	認知症型	201 (0)	238 (0)	235 (0)	244 (0)	243 (0)	233 (0)		
		10	11	12	1	2	3		
		238 (0)	222 (0)	241 (0)	232 (0)	230 (0)	244 (0)		
29 年度	月	4	5	6	7	8	9	合計	稼働率
	一般型	649 (133)	672 (206)	677 (165)	653 (221)	665 (157)	588 (185)	7,886 (1,854)	89.7%
		10	11	12	1	2	3		
		676 (139)	703 (134)	663 (145)	641 (124)	594 (148)	677 (125)		
	月	4	5	6	7	8	9	2,348 (0)	53.9%
	認知症型	224 (0)	222 (0)	196 (0)	203 (0)	184 (0)	188 (0)		
		10	11	12	1	2	3		
		197 (0)	172 (0)	185 (0)	196 (0)	183 (0)	198 (0)		

④ 介護度別利用数

単位：人（延べ数）

年度	介護度	要支援 1	要支援 2	1	2	3	4	5	合計	平均 介護度
	30 年度	一般型	304	1,028	2,578	2,696	1,685	915	422	9,628
認知症型		0	0	604	600	501	400	696	2,801	2.99
29 年度	介護度	要支援 1	要支援 2	1	2	3	4	5	合計	平均 介護度
	一般型	549	1,305	2,146	3,189	1,504	861	186	9,740	2.04
	認知症型	0	0	265	535	817	52	679	2,348	3.15

⑤ 行事等の状況

単位：人（延べ数）

月	行事内容	参加人数	
		30年度	29年度
4	お花見ドライブ	131	104
5	菖蒲湯	89	253
6	外出ドライブ	—	118
7	ふそき夏まつり	108	93
9	長寿を祝う会	71	29
	すこやかともしびまつり見学	7	11
10	買い物外出	102	—
	甘味・外出ドライブ	—	127
	コミュニティふそきまつり見学	2	4
	博物館・水族館見学	—	29
11	山本コミュニティ芸能発表会見学	4	5
12	クリスマス会	72	56
1	新年会	73	67
2	節分	66	26
合計		725	922

(3) 暮らし元気アップ事業「ふそき元気塾」

・定員 20 名、火曜日と金曜日の週 2 回の実施であるが、体調不良などで定員を常に埋めることが難しかった。介護予防支援事業所等への情報提供を密に行い、新規利用者の確保に努めた。

- ・ 毎回法人の運動指導員による運動機能向上プログラムを組み込み、認知症予防や口腔機能向上講座を定期的の実施した。また、心身の活性化を図るため季節に応じた外出や利用者の要望をプログラムに反映させた。
- ・ ボランティア育成や活用も求められており、地域に向けて募集しているが応募者はいなかった。今後は活動内容を広く地域へ発信していきたい。

資料<利用者の状況>

利用者数		単位：人（延べ数）						
30 年 度	月	4	5	6	7	8	9	合計
	人数	126	154	155	153	136	134	1,713
	月	10	11	12	1	2	3	
	人数	156	153	134	127	133	152	
月	4	5	6	7	8	9	合計	
29 年 度	人数	4	72	102	95	91	126	1,324
	月	10	11	12	1	2	3	
	人数	118	138	151	139	132	156	

(4) 介護プランセンターふそき

- ・ かかりつけ医やサービス事業所等との多職種連携、地域の方との情報共有を行い、ご本人が住み慣れた地域での生活が継続できるよう支援した。困難事例に対しては地域包括支援センターや各サービス事業所、地域とも連携し対応を行った。
- ・ 地域の介護支援専門員の資質向上を目指して他法人と合同の事例検討会を開催する為、川東地区の複数の居宅介護支援事業所で話し合いを行い、地域の居宅介護支援事業所にも声をかけ年に2回事例検討会を開催することができた。
- ・ 入院及び退院時に医療機関と連携を行い、よりスムーズに本人の支援に繋げることができるよう努めた。緊急性の高いケースについても医療機関や各事業所と連携し対応することができた。

資料<利用者の状況>

① 居宅サービス計画作成数

単位：件（延べ数）

30 年 度	月	4	5	6	7	8	9	合計
	件数	124	114	118	115	122	119	1,495
	月	10	11	12	1	2	3	
	件数	134	129	131	128	130	131	
月	4	5	6	7	8	9	合計	
29 年 度	件数	125	126	132	121	125	127	1,506
	月	10	11	12	1	2	3	
	件数	129	129	127	122	122	121	

② 指定介護予防支援受託件数

単位：件（延べ数）

30 年 度	月	4	5	6	7	8	9	合計
	件数	13	12	14	11	12	11	147
	月	10	11	12	1	2	3	
	件数	14	13	13	11	12	11	
29 年 度	月	4	5	6	7	8	9	合計
	件数	18	15	16	18	17	16	175
	月	10	11	12	1	2	3	
	件数	14	14	14	11	16	15	

③ 介護予防ケアマネジメント受託件数

単位：件（延べ数）

30 年 度	月	4	5	6	7	8	9	合計
	件数	6	6	7	6	6	7	71
	月	10	11	12	1	2	3	
	件数	7	6	5	5	5	5	
29 年 度	月	4	5	6	7	8	9	合計
	件数	0	0	1	1	1	1	31
	月	10	11	12	1	2	3	
	件数	2	3	4	5	6	7	

④ 認定調査件数

30年度	150件	29年度	178件
------	------	------	------

(5) 長岡市地域包括支援センターふそき（長岡市委託事業）

- ・関係機関と連携を図り、30年度は今まで関わりのなかった地域の単身世帯、高齢者世帯を中心に戸別訪問を行い実態把握ができた。また、来所相談や医療機関からの相談が増えたことで、一般世帯の実態把握も行えた。
- ・地域包括的支援をより深く学ぶため、計画的に内部研修や外部研修に参加し職員の資質向上を図り、多様化する問題ケースに対応することができた。
- ・地域包括ケア会議（圏域会議）を開催し、圏域会議の評価と困難事例検討を行い、専門職として適切な助言を行った。
- ・地域住民に虐待防止への意識の高まりから、民生委員や家族、本人からの虐待相談が増加しているが、繰り返し虐待を行っていると思われる家族に対してはサービス提供事業所や担当ケアマネジャーと連携し対応することができた。
- ・総合事業は、事業対象者を対象に地域のサービス事業所の活動内容を紹介し、利用者のニーズに添った予防サービスの利用に繋げることができた。

資料＜利用者の状況＞

① 相談業務の状況

・相談人数

(単位:件)

年度	電話	来所	訪問	その他	合計	実態把握 年間実件数
30	2,678	492	1,313	191	4,674	715
29	1,924	360	1,179	93	3,556	748

・相談経路

(単位:件)

年度	本人	継続	家族	民生委員	福祉機関	医療機関	地域機関	現況調査	行政機関	その他	合計
30	183	928	313	39	40	70	11	154	22	55	1,815
29	187	696	260	29	51	48	14	268	19	33	1,605

・相談内容

(単位:件)

相談内容		件数		
		30年度	29年度	
介護保険	認定関係	504	358	
	サービスの紹介	463	319	
	その他	602	484	
小 計		1,569	1,161	
介護保険外	介護方法や介護の悩み	66	23	
	医療・疾病関係	37	27	
	高齢者の介護予防	79	40	
	配食サービス	5	3	
	外出支援サービス	47	16	
	生活支援サービス	73	35	
	福祉機器	55	26	
	住宅の増改築	21	17	
	その他サービスの取次ぎ	130	107	
	虐待防止	1	2	
	権利擁護・成年後見	2	6	
	認知症・物忘れ	132	92	
その他	654	506		
小 計		1,302	900	
ケアマネ支援	ケアマネジメント	アセスメント	1	1
		ケアプラン	0	0
		サービス調整	0	1
		モニタリング	0	0
		担当者会議	0	1

相談内容		件数	
		30年度	29年度
ケアマネ支援	社会資源紹介	2	0
	医療との連携	1	0
	対人援助技術	0	1
	制度の説明	0	2
	個人の悩み	0	0
	その他	3	4
小 計		7	10
支援内容 (延べ件数)	情報収集	0	0
	内容整理・問題の明確化	2	2
	助言	7	6
	同行訪問	3	5
	会議	1	0
	経過確認	3	8
	その他	3	4
小 計		19	25
合 計		2,897	2,096

②介護予防支援実施人数（年間延べ件数）

年度	直営	委託	合計
30	219	1,312	1,531
29	241	1522	1,763

介護予防ケアマネジメント実施人数（年間延べ件数）

年度	直営	委託	合計
30	654	474	1,128
29	772	310	1,082

③年間給付管理件数

年度	直営	委託	合計
30	873	1,786	2,659
29	1,013	1,832	2,845

④虐待対応件数

項目	30年度	29年度
虐待支援計画作成件数	23	19

2. ボランティア・実習生の受け入れ状況

(ボランティアの受け入れ)

単位：人(延べ数)

区 分		30年度	29年度	
長岡市デイサービスセンターふそき	定期	個人ボランティア	317	137
		団体(グループ)ボランティア	130	116
	随時	個人ボランティア	12	6
		団体(グループ)ボランティア	84	22
		保育園・学校等	102	139
合 計		645	420	

(実習生の受け入れ)

単位：人(延べ数)

受入事業所	区 分	30年度		29年度	
		実人員	延日数	実人員	延日数
長岡市デイサービスセンターふそき	北陸福祉保育専門学院 (小学校教諭普通免許)	4	20	3	15
	新潟県社会福祉協議会 (介護等体験)	6	30	3	15
	長岡こども福祉カレッジ (レクリエーション実習)	11	4	20	10
	新潟県厚生連中央看護専門学校 在宅看護実習	0	0	32	64
	福祉体験学習(中学校)	2	6	0	0
介護プランセンターふそき	新潟県厚生連中央看護専門学校 在宅看護実習	18	36	16	32
地域包括支援センターふそき	新潟県厚生連中央看護専門学校 在宅看護実習	10	20	14	28
合 計		51	116	88	164

3. 拠点委員会

①リスク管理委員会

ヒヤリハットの集計を半年の期間で実施しているが、前期間では異動による思い込みや伝達不足のため、未然に確認しておけば防げた初歩的なヒヤリハットが多い傾向が明らかになった。そのことから職員の気づきを促すよう事例検討を主とした研修を実施し、後期はやや改善がみられた。

②防災委員会

昨年度から実施している洪水浸水想定避難訓練を今年度も実施し、基本行動の徹底と避難所として必要な物品の確認を行った。初期消火訓練については、消火栓の放水と水消火器を使用した訓練を継続して実施した。年間防災訓練に添って計画的に訓練を実施

できたが、高齢者センター職員不在時の災害対応に不安が残ることから、次年度は防災盤の取り扱いを含めセンター内全職員が対応できるような訓練を実施することとしたい。

③感染対策委員会

感染予防のため使用する消毒剤について、効力とコスト面から既存品の見直しを図り、より有効な物品を選定した。感染症流行期については、職員並びにご利用者のインフルエンザ等の罹患は数名みられたが、手洗いやうがい、マスク装着の徹底を促し感染予防に対する職員の意識付けを図ったことで、蔓延することはなかった。

④労働衛生管理委員会

腰痛予防対策として、業務に入る前の体操を今年度も継続して実施した。メンタルヘルス研修については、「怒りのコントロール」について外部研修に委員が参加し、職員に事前学習を行ったうえで伝達研修を実施したことで、より学びが深まり感情のコントロールの大切さを再確認できた。

⑤身体拘束虐待廃止委員会

身体拘束対象者はいなかったが、マニュアルの見直しを行い職員に周知した。また虐待の可能性を疑う事例は確認されなかったが、早期発見の視点を忘れないように研修を実施した。

4. 苦情（意見）内容

デイサービスセンターふそき	①内容	申出人：匿名 電話にて「交差点で送迎車両が飛び出していった。女性が運転しており、危険と思い自分はクラクションを鳴らした」と訴えがあった。
	原因と処理	電話対応した職員が謝罪すると「今度は気をつけてよ」と穏やかにいわれ、電話を切られた。
	改善策（結果）	車両の発進、停車、駐車など車両運転時は常に周囲や道路状況把握に努め、左右の確認時は運転手と同乗職員が共に確認するよう申し合わせた。
	②内容	申出人：ご家族 送迎時に挨拶をしない職員がいる。職員指導に不信感がある。
	原因と処理	職員への指導不足。ご家族へ謝罪し、マニュアルに沿って接遇の再教育を職員全体に行ったことを報告した。
	改善策（結果）	職員には接遇やマニュアルに対して再周知し、対応した職員に対して指導を行った。

【拠点・ケアセンター花の里かつぼ】

1. 事業運営の成果

- ・ケアセンター花の里かつぼ 10 周年記念行事を開催した。雨天によりセンター内での開催であったが、入居者家族や地域住民、関係機関より約 80 名が参集しボランティアへの感謝状贈呈のほか童謡歌手によるコンサートを楽しんで頂くことができた。

(1) 特別養護老人ホーム花の里かつぼ

- ・入居者の重度化や高齢化が進み平均介護度は 4.41 だった。退所者は昨年度並だったが、入所の受入れを円滑に行なうことで稼働率は 99.0%と昨年度比 0.9%増であった。

① 介護

- ・屋外用テーブルと椅子を新たに配置し、入居者と家族が園庭でゆったりと過ごしやすい環境を整え、面会に来られた家族との交流促進に繋がった。また、天候の良い日は中庭で入居者同士の交流も図ることができた。
- ・施設サービス計画に基づき、季節に応じた余暇活動や行事活動の他、たたみ物等の軽作業やプランターの園芸活動、外出活動等を通じ、入居者個々のニーズに沿った支援を実施できた。
- ・歯科医師等も含め職種間連携を行い入居者の経口維持に努めた。また、口腔内の観察を適宜行い口腔ケア向上を図ることができた。
- ・研修計画に基づき、職員個々のスキルアップを図った。また、階層段階に応じた外部研修へ積極的に参加した。

② 医務

- ・協力病院、主治医と連携を図り、入居者の健康管理に努め疾病の早期発見、治療につなげることができ、治療を必要とする入院者は 3 人だった。
- ・他職種やご家族と連携を図り、安心して最期を迎えられるよう入居者 9 人の看取り介護を行う事ができた。
- ・感染予防対策の実施及び周知の徹底を行ったが、施設内で入居者 2 人がインフルエンザに罹患した。蔓延防止の徹底を図り速やかに終息する事ができた。
- ・嚥下機能及び身体機能の維持向上を図るため、定期的に口腔体操を行い、体を動かす機会を増やし活気のある生活につなげることができた。

③ 給食

- ・委託給食業者と連携をとり、毎月の茶話会や日々関わりの中での入居者の要望を献立に取り入れることができた。また、暦に合わせ、行事食の提供を行うことで日常の中で潤いのある食事の提供を行うことができた。
- ・多職種で食事観察を行ない、入居者の咀嚼・嚥下状態に合った食事形態及び水分形状で食事を提供し、安全な食事の提供が行えた。

資料 1 <入居者の状況>

① 入退所状況

単位：人（実数）

入所前の待機場所						
待機場所	在 宅	長期間 ショート	老健等 他施設	病 院	法人グルー プホーム	合 計
30 年度	2	0	4	2	3	11
29 年度	4	0	1	0	5	10

退所の状況					
状 況	在 宅	施設内で死亡 ※1（ ）	病 院	他施設	合計
30 年度	0	9（9）	2	0	11
29 年度	0	6（4）	3	1	10

※1（ ）ターミナルケア計画に基づき、施設内で看取りを実施した数

② 年度末介護度別数

単位：人（実数）

年度	介護度	要介護度1	要介護度2	要介護度3	要介護度4	要介護度5	合計
	30 年度		0	0	2	11	16
29 年度		0	0	2	12	15	29

③ 月別利用数

単位：人（延べ数）

30 年度	月	4	5	6	7	8	9	合計	稼働率
	人数	864	895	866	878	890	864		
月	10	11	12	1	2	3			
人数	895	870	894	899	789	881			
29 年度	月	4	5	6	7	8	9	合計	稼働率
	人数	870	899	857	882	864	796		
	月	10	11	12	1	2	3		
	人数	876	870	891	883	808	890		

④ 介護度別利用数

単位：人（延べ数）

30 年度	介護度	1	2	3	4	5	合計	平均介護度
	人数	0	0	822	4,603	5,060	10,485	4.41
29 年度	介護度	1	2	3	4	5	合計	平均介護度
	人数	0	0	1,308	4,042	5,036	10,386	4.35

⑤ 日常生活動作（平成 31 年 3 月 31 日現在） 単位：人（実数）

生活動作尺度	区 分	30 年度	29 年度
移 動	独歩	2	1
	介助・介助具使用	3	3
	車椅子	24	25

生活動作尺度	区 分	29 年度	29 年度
食 事	自立・見守り	14	16
	一部介助	4	4
	全介助	10	6
	経管栄養	1	3
排 泄	トイレ 自立	3	3
	一部介助	7	3
	全介助	2	9
	ポータブルトイレ		
	自立	0	0
	一部介助	0	0
	全介助	0	1
	オムツ	16	12
フォーレ	1	1	
入 浴	一般浴（座浴）	14	14
	特浴	15	15

⑥ 食事形態（平成 31 年 3 月 31 日現在）

単位：食（実数）

主食		副食		経管栄養
米飯	8	普通	2	1
おにぎり	0	刻み	9	/
粥	13	超刻み	10	
ミキサー	5	ミキサー	6	
パン	1	ムース	0	
流動食	1	流動食	1	

資料 2 <余暇活動等>

余暇活動の実績

単位：人（延べ数）

月	余暇活動内容	参加人数
4	お花見ドライブ	8
	喫茶	18
5	イングリッシュガーデン外出	11
	テラスで食事	9
	寿司外出（個人）	1
	茶話会	10
	喫茶	19
6	クラシック音楽鑑賞（個人）	1
	プリンアラモード作り	10
	お好み焼き作り	9
	喫茶	24

月	余暇活動内容	参加人数
7	クラシック音楽鑑賞（個人）	1
	アピタへ外出	3
	カキ氷作り	10
	フルーツゼリー作り	9
	七夕まつり	29
	喫茶	24
8	アイスパーティー	9
	花の里花火大会	13
	浦瀬花火観賞	4
	喫茶	21
9	敬老会	29
	おでん会	10
	すこやかともしび祭り外出	6
	プリンアラモード作り	10
	喫茶	26
10	お茶会	10
	紅葉見学	4
	寿司ランチツアー	4
	喫茶	19
11	どら焼き作り	19
	へぎそばを食べに外出	3
	カラオケとおやつ会	10
	喫茶	20
12	クリスマス会	29
	喫茶	19
1	おしるこ作り	10
	新年会	29
	喫茶	20
2	豆まき	29
3	ケーキで茶話会	10
	御雛祭り会	10
	たこ焼き、プリンアラモード作り	9
	喫茶	8
合 計		586

(2) グループホーム花の里かつぼ

- 入居者個々の認知症状や行動特性を踏まえ、室内環境や動線上の安全確保に取り組んだ結果、疾患による入院はあったものの骨折による入院は0件であったこと、また感染症のまん延を予防できた事で稼働率の維持に繋がり、99.2%となった。
- 高校の学生寮、町内ゴミステーションの掃除などの地域活動、地域ボランティアとの交流を継続し実施できた。地区社協主催のふれあい食事会を事業所内にて開催した。地域の子供も達が遊びに訪れている時間帯であったことから、地域住民にとっても子どもたちと交流する機会となって楽しいという声があがった。また地元の小学校へ行き児童を主体とした花壇整備活動である「ありんこ活動」も継続して参加することができ入居者の楽しみや張り合いに繋がった。
- 2か月に1回、地域住民の代表・家族・利用者・地域包括支援センター職員から参加頂き地域運営推進会議を開催した。参加者に幅広く事業内容や活動を知って頂く機会となった。地域の方からは『地域とともに。』私ども町内との関わりや思い出の場所・交流・ふれあいを大切にしており大変良い」等評価頂いた。
- 老施協中越地区の取り組み発表にて良い評価を頂き、次年度見学先施設に選出された。こうして評価頂いた事で、地域活動を行う意義の再確認ができ、今後の創意工夫への意識向上に繋がった。
- ご家族、主治医と連携し、2名の看取りを実施した。「その方らしさ」を尊重し寄り添うケアに努め、ご家族に囲まれて最期を迎えられた。

資料<入居者の状況>

① 入退居の状況

単位：人（実数）

入居前の状況					
状況	在宅	長期間 ショート	老健等 他施設	病院	合計
30年度	3	0	1	1	5
29年度	5	0	0	0	5

退居の状況					
状況	在宅	施設内で死亡	病院入院・老 健等他施設	特養へ入所 ※1（ ）	合計
30年度	0	2	1	2（2）	5
29年度	0	0	1	4（4）	5

※1（ ）内は法人内施設への入居された方の数

② 年度末介護度別数

単位：人（実数）

年度	介護度						
	要支援2	1	2	3	4	5	合計
30年度	1	0	6	7	2	2	18
29年度	0	0	6	8	3	1	18

③ 月別利用数

単位：人（延べ数）

30年度	月	4	5	6	7	8	9	合計	稼働率		
	人数	538	544	536	558	558	540			6,517	99.2%
29年度	月	10	11	12	1	2	3				
	人数	547	538	554	542	504	558	6,431	97.9%		
30年度	月	4	5	6	7	8	9			合計	稼働率
	人数	536	551	527	550	554	515				
29年度	月	10	11	12	1	2	3				
	人数	547	520	553	523	503	552	6,431	97.9%		

④ 年度介護度別数

単位：人（延べ数）

30年度	介護度	1	2	3	4	5	合計	平均介護度
	人数	41	2,340	2,385	507	1,082		
29年度	介護度	1	2	3	4	5	合計	平均介護度
	人数	83	1,709	2,395	1,402	842		

⑤ 余暇活動の実績

単位：人（延べ数）

月	余暇活動内容	ご利用者 参加人数	ご家族・地域住民 参加人数
4	花見ドライブ	10（うち DS1 名）	
	市内ドライブ	17（うち DS2 名）	
5	山本地区花フェスタ	3（うち DS1 名）	12（地域）
	浦瀬小運動会	4（うち DS1 名）	
	市内ドライブ	2	
	駅前プランター整備活動	2	
	中越高校寮掃除	4（うち DS2 名）	
	なじらーて美沢店買い物	10（うち DS1 名）	
	栃尾ドライブ	7（うち DS2 名）	
	見附市内ドライブ	11（うち DS 2 名）	
	桂小学校運動会・花植え	3（うち DS 2 名）	
すことも作品作り	10		
6	三八市	4	21（ご家族 5 名、 地域 16 名）
	山本コミセン美化活動	2	
	おはぎ作り	20（うち DS2 名）	
	桂小学校ありんこ活動	5	
	中越高校寮の掃除	4	
	駅前プランター整備	2（うち DS1 名）	
	悠久山・防災公園ドライブ	7（うち DS1 名）	
	水穴町食事会	1	

月	余暇活動内容	ご利用者 参加人数	ご家族・地域住民 参加人数
6	中越高校監督室掃除 すことも作品作り みやじ様外食 山本中学校プランター活動	4 12 9 1	12 (地域)
7	夏祭り 桂小学校ありんこ活動 山本コミセン美化活動 中越高校野球部応援千羽鶴 高校野球観戦 かつぼ観音掃除・花供え 中越高校寮掃除 野球部監督室掃除 駅前プランター整備 すことも作品作り	22 (うち DS4 名) 4 2 3 7 (うち DS2 名) 3 (うち DS2 名) 4 3 (うち DS1 名) 2 10	16 (ご家族 13 名、 地域 3 名) 12 (地域)
8	長岡花火見学 中越高校寮掃除 納涼祭 中越高校野球部監督室掃除 駅前プランター整備活動 ふれあい食事会	5 2 15 2 2 18	13 (地域)
9	長寿を祝う会 すこやかともしび祭り 中越高校寮掃除 中越高校監督室掃除 山本中体育祭見学 水穴団地クリーンサンデー 東山ファミリーランド 江口だんご買い物 墓参り セブンイレブン買い物	21 (うち DS3 名) 9 (うち DS2 名) 4 4 2 (うち DS1 名) 1 8 4 1 1	11 (ご家族)
10	悠久山ドライブ(共用デイ 1 名) 桂小ありんこ活動 ハイブ長岡 見附市内ドライブ 中越高校野球部監督室掃除 中越高校寮掃除	6 4 7 7 1 4	

月	余暇活動内容	ご利用者 参加人数	ご家族・地域住民 参加人数
10	外食	1	
	桂小学校なないろ祭り	5	
	桂温泉	1	
11	山本コミセン文化祭	6 (うち DS2 名)	
	中越高校野球部監督室掃除	2	
	栃尾道の駅ドライブ	4	
	中越高校寮掃除	4	
	ふれあい食事会	1	
	プラント・アピタ買い物	1	
	宝徳稲荷もみじ見物	14 (うち DS1 名)	
	ニッティングカフェ	18	5 (地域)
12	大掃除・忘年会	22 (うち DS4 名)	8 (ご家族)
	クリスマス会	22 (うち DS4 名)	20 (ご家族 8 名、 地域 12 名)
	中越高校寮掃除	4	
	作品作り	10	12 (地域)
1	水穴町賀詞交換会	1	
	中越高校寮掃除	2	
	たこやきパーティー	18	
	作品作り	10	12 (地域)
2	節分	18	5 (地域)
	作品作り	10	12 (地域)
3	希望が丘地区介護予防事業	1	
	こいていこいて卒業式		
合計		517 (うち DS44 名)	171 (ご家族 37 名 地域 134 名)

⑦ クラブ活動の実績

単位：人（延べ数）

クラブ名	実施回数	参加人数
書道教室	7	70 (うち DS20)

(3) デイサービス花の里かつぼ

- ・居宅介護支援事業所と連携を図り、認知症状や栄養状態等の細かな情報をご利用者・ご家族へ伝え、適切なサービスが提供できるよう努めた。若年性認知症者や他サービスになじめなかった方についても、関係機関と連携を図り受け入れを実施した。ご利用者にとって張り合いや楽しみ、ご家族にとって安心に繋がった。また、ご利用者個々のニーズに沿って個別外出や地域活動等に合わせ利用調整を行ない、楽しみや張り合いのある生活支援に努めた。

- ・通所介護サービス計画に基づき、家庭的な雰囲気の中で利用者の能力に応じた日常生活動作の継続支援・余暇活動・外出活動等を実施することができた。
- ・デイサービスを利用しながらグループホームへの入居を待つご利用者に対しては、通い慣れた場所、馴染みの職員がいる環境へのスムーズな入居ができるようご家族との関係性を築くことができた。

資料＜利用者の状況＞

①登録者数 単位：人（実数）

区分 年度	長岡市
30年度	11
29年度	8

②利用者数 単位：人（延べ数）

区分 年度	長岡市	稼働日数	1日あたり 平均人数
30年度	1156	365	3.16
29年度	1014	365	2.77

③ 月別利用数 () 内は介護予防通所利用数 単位：人(延べ数)

年度	月	4	5	6	7	8	9	合計	稼働率
	人数	94 (0)	89 (0)	88 (0)	90 (0)	98 (0)	87 (0)		
30年度	月	10	11	12	1	2	3		
	人数	95 (0)	91 (0)	94 (0)	120 (0)	73 (0)	137 (0)		
29年度	月	4	5	6	7	8	9	合計	稼働率
	人数	53 (0)	83 (0)	92 (0)	97 (0)	96 (0)	86 (0)	1,014 (0)	46.3%
	月	10	11	12	1	2	3		
	人数	90 (0)	83 (0)	86 (0)	89 (0)	76 (0)	83 (0)		

④ 介護度別利用者数 単位：人(延べ数)

年度	介護度	要支援	1	2	3	4	5	合計	平均 介護度
	30年度	人数	0	306	662	148	19		
29年度	介護度	要支援	1	2	3	4	5	合計	平均 介護度
	人数	0	370	301	285	58	0	1,014	2.03

2. ボランティア・実習生等の受け入れ状況

(ボランティアの受け入れ)

単位：人(延べ数)

区 分			30 年度	29 年度
ケアセンター 花の里 かつぼ	定期	個人ボランティア	28	17
		団体(グループ)ボランティア	216	104
	随時	個人ボランティア	3	78
		団体(グループ)ボランティア	56	90
		保育園・学校等	103	56
	合 計			318

(実習生の受け入れ)

単位：人

受入事業所	区 分	30 年度		29 年度	
		実人員	延日数	実人員	延日数
特別養護老人ホーム 花の里 かつぼ	長岡こども福祉カレッジ専門学校 (介護実習)	0	0	2	2
	新潟県社会福祉協議会 (福祉職場体験)	0	0	1	5
	北陸食育フードカレッジ (管理栄養士業務実践実習)	0	0	4	8
	新潟県認知症実践者他施設実習 (認知症実践者研修)	3	3	1	1
	他施設依頼実習	1	4	0	0
合 計		4	7	9	17

3. 拠点委員会

① リスク管理委員会

- ・事故を未然に防ぐため、「講義：ヒヤリハットについて」「7、8月の2カ月間に渡り、ヒヤリとした事、ハットとした事の記入、改善策の検討」「実演による危険予知トレーニング」の計3回の内部研修を実施した。研修を通して、気付きが必要であること、職員間の情報共有が大切であることを再認識でき事故を未然に防ごうという意識も高まった。また、小さな内出血でもヒヤリハット用紙を記入する事で、大きな事故の予防につながった。骨折や入院など大きな事故は無かった。事故防止マニュアルの見直し・周知徹底を行った。

② 食事サービス委員会

- ・検食内容の評価を行なうことで、安全・安心の食事提供を行なった。
- ・年度末に入居者に食事満足度調査を行ない、満足度の評価や要望を聞き取り、食事満足度の向上を図った。
- ・ふれあい畑で野菜を栽培し、収穫・調理を行ない、入居者と共に旬の味覚を楽しむことができた。

③ 感染対策委員会

- ・外部講師による食中毒、感染予防研修を年2回実施した。さらに嘔吐物処理の方法についても外部講師から研修を受け意識向上に繋がった。
- ・インフルエンザ感染症について流行期に入居者2人、職員5人が罹患したが施設内での蔓延を防止することができた。職員及び面会者へ手洗い、うがい、マスク着用の声かけ等の働きかけを徹底し感染予防に対する意識を高めることができた。

④ 労働衛生委員会

- ・職員の定期健康診断を年1回（夜勤者は年2回）実施し、要医療の結果の職員には受診するよう声かけを行ない受診結果の用紙を提出して貰った。腰痛の原因に合わせ腰痛予防のための研修を行ない、腰痛予防の意識向上に繋がったと意見が聞かれた。メンタルヘルスについては健康診断時ストレスチェックを行ない自分のストレスの状態を確認してもらうことができた。「褒め合う事で自己肯定感を持ち前向きになれる。」という研修を行ない職員のモチベーションアップに繋がった。

⑤ 身体拘束虐待廃止委員会

- ・身体拘束防止と虐待防止に関する職員研修会を年2回実施し、職員への意識向上を図り理解を深めてもらえた。入居者のベット柵の必要性を検証し、用具としての活用方法や不必要なベット柵の撤去に取り組んだ。

⑥ 園芸委員会

- ・年2回の本部主催の花壇イベントでは委員が中心となって地域住民の皆さんと交流を図りながら花壇の整備を実施できた。またユニット花壇レイアウトの考案や日々の草取り、花がら摘みや切り戻し等の作業を行った。水やりは全職員に協力を仰ぎ実施出来た。長岡市の花いっぱいコンクールでは昨年度に続き、職場の部で「優秀賞」を頂いた。

⑦ 防災委員会

- ・防災計画に基づき、初期消火訓練、放送設備訓練、緊急連絡網訓練等の部分訓練をはじめ、水害・土砂災害を想定した避難訓練や地震・火災を想定した避難訓練を年2回実施した。避難訓練では職員同士の声かけや連携内容に課題が挙げられた。また、長岡市から外部講師を招き防災教育を実施し職員の意識や知識向上を図った。

⑧ 痰の吸引等安全対策委員会

- ・医師より痰の吸引の指示を受けている入居者4人であった。職員に対して安全に痰の吸引ができるように実技研修を行なった。その他物品の点検、管理を定期的に行なった。

4. 苦情（意見）内容

ケアセンター花の里かつぼ	①内容	申出人：地域住民 電話にて「自宅前において送迎車輛がカーブしている歩道側白線にはみ出して運転していたため危険である。この辺りは事故も多く高齢者も多いので注意してほしい。」と訴えがあった。
	原因と処理	電話対応した職員が謝罪した。また申し出人宅へ苦情解決責任者が出向いたが不在であり電話繋がらなかったことから直接の謝罪はできなかった。申し出人からは、「改善してほしいが改善回答を求めている」とのことであったため、運転職員への事実確認を行ったうえ安全運転業務に対する注意喚起の徹底を全職員に図ることで改善対応とした。
	改善策（結果）	職員を対象に朝礼時道路交通法の周知と安全運転に関する注意・喚起を実施した。

【シルバーハウジング生活援助員派遣事業】

シルバーハウジング（高齢者世話付住宅）は、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるように、生活相談、安否確認や緊急対応などを行う「生活援助員（LSA）」を配置した住宅のこと。現在、市内には3ヶ所のシルバーハウジングがあり、長岡市より当法人が生活援助員派遣事業として受託しているもの。

平成30年4月1日～平成31年3月31日

シルバーハウジング稽古町

稽古町団地県営住宅のうち20戸（平成13年から）

緊急呼出し件数	内容(対応)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	誤報	3		7		1	1	1			2	3	3	2
救急車手配			1										1	2
市役所連絡	2			1						1			1	5
家族連絡	1		2	1				1	1	1	1	2	1	11
医療・福祉機関連絡	2	2	5	4	4	2	2	9			3	2	3	38
その他														0
入退室状況	住替え(施設入所等)													0
	入院等				1	1							2	4
	他界												1	1
	その他													0

※誤報については、機械トラブルは随時修理修繕を行った。その他入居者の押し間違い等もあった。開設から年数が経過していることから入居者も高齢化が進み、関係機関との連携が増えた。

平成30年4月1日～平成31年3月31日

シルバーハウジング千歳町

千歳団地市営住宅のうち20戸(平成18年から)

緊急呼出し件数	内容(対応)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	誤報	2		1	1	1	3	2	2	1		1	3	17
救急車手配														0
市役所連絡														0
家族連絡														0
医療・福祉機関連絡														0
その他														0
入退室状況	住替え(施設入所等)					1								1
	入院等				1	2	1							4
	他界							1		1				2
	その他								1				1	2

※押し間違いや、入居者の機械操作の理解不足による緊急呼び出しが多くみられた。

中越地震発生後の罹災者住宅であるが、入居後から10年経過していることから、入院、他界等が増えてはいるが、安定した状態の方が比較的多い。

平成30年4月1日～平成31年3月31日

シルバーハウジング稲葉団地

稲葉団地市営住宅のうち20戸(平成26年から)

緊急呼出し件数	内容(対応)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	誤報	2	2	1	3	4	2				1			
救急車手配														0
市役所連絡		6	9	13	5	1	3	7	2	6	5	5		62
家族連絡								1		1	2			4
医療・福祉機関連絡		24	23	15	17	19	25	15	17	23	10	14		202
その他	4	6		4		3	2	8		4				31
入退室状況	住替え(施設入所等)													0
	入院等					1	1	2	1	2	2	2	1	12
	他界							1				1		2
	その他													0

※水の止め忘れによる誤報が多くみられた。従来の稲葉団地から住まわれている方も多く、新築移転後5年経過したことから、入居者の高齢化が進み、状態低下のため入院や施設入所となった方もおられた。そのため、市役所並びに医療・福祉機関との連絡、連携を取る機会も例年より多かった。